

秋出しストックの品種と播種期について

林 秀樹・畑井 昭一郎

(青森県畑作園芸試験場)

Studies on the Varieties and Seeding Times of *Mathiola incana* R.Br. for Autumn Season

Hideki HAYASHI and Shoichiro HATAI

(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station)

1 は し が き

青森県の花き生産は、切花キク生産が主体であるが、施設利用による夏ギク半促成の後作として秋出しストック栽培が増加している。これは、施設の高度利用と共に経済的にも有利である。

寒冷地におけるストックに関する報告は、吉池²⁾の露地栽培での可能な品種の選抜と、柴田等¹⁾の施設利用によるストックの周年栽培がある。しかし、本県の気象条件や施設利用面における秋出し栽培について明らかにする必要がある。

そこで、施設利用によるストックの秋出し栽培における無分枝系の極早生品種の、播種期と採花期及び切花品質との関係を明らかにしたので報告する。

2 試 験 方 法

(1) 供試品種

赤色系： 「相模紅」, 「クリスマス・ローズ」,
「べに姫」, 「富士の輝」

紫青色系： 「クリスマス・ブルー」

白色系： 「先勝の雪」, 「安房の雪」

(2) 播種期・移植期及び定植期

表1のとおりである。

(3) 八重鑑別： 子葉展開時に苗の棄却率50%で行った。
(ただし、7月7日播種は、棄却率75%)

(4) 区制： 1区制 1区50株

(5) 栽植様式： うね幅140cm, 株間12cm, 条間12cm,
6条植え, m^2 当たり35.7株

(6) 施肥量 (kg/a)

基肥： 堆肥200, 苦土重焼りん12, 苦土石灰20, N
1, P_2O_5 1, K_2O 1。

表1 播種期・移植期及び定植期

耕種	回	第1回	第2回	第3回
播種期		6月22日	7月7日	7月23日
移植期		7月6日	7月23日	8月4日
定植期		7月29日	8月17日	8月26日

3 結果及び考察

採花期及び収穫調査の結果は表2及び図1のとおりである。採花期は一般に、播種期が早いほど早い傾向であった。採花最盛期(50%以上採花した日)は、6月22日播種では7品種とも9月16~24日。7月7日播種では、「クリスマス・ローズ」が9月24日。「相模紅」, 「べに姫」, 「富士の輝」, 「先勝の雪」が10月12日。「クリスマス・ブルー」, 「安房の雪」は10月19~22日。7月23日播種では「クリスマス・ローズ」が10月7日, 「相模紅」, 「先勝の雪」が10月19日。「べに姫」, 「富士の輝」, 「クリスマス・ブルー」, 「安房の雪」は10月26日~11月4日であった。

切花長は6月22日播種では全般に短かったが, 「べに姫」, 「富士の輝」, 「クリスマス・ローズ」, 「クリスマス・ブルー」は53~64cmであることから切花品質は十分であった。7月7日・23日播種では「富士の輝」, 「クリスマス・ブルー」は71~75cm。「べに姫」, 「安房の雪」は64~70cm。「相模紅」, 「クリスマス・ローズ」は57~65cm。「先勝の雪」のみは48~49cmでやや短かったが、切花品質としては十分であった。

八重率は、棄却率50%の6月22日及び7月23日播種では、「クリスマス・ブルー」, 「先勝の雪」が70~73%。「相模紅」, 「べに姫」, 「富士の輝」は65~82%。「クリスマス・ローズ」, 「安房の雪」は57~64%で全般に低かった。棄却率75%の7月7日播種では, 「べに姫」, 「富士の輝」, 「クリスマス・ローズ」, 「先勝の雪」は81~89%と比較的良好であったが, 「相模紅」, 「クリスマス・ブルー」, 「安房の雪」は70~76%と低かった。

4 ま と め

施設利用による秋出しストックの品種の特性と作型について検討した結果、6月下旬に播種すると採花期は9月中~下旬となる。この時期は、暖地・普通地帯・高冷地の夏播き栽培のストックが出荷される前であることから、寒冷地での作型として有利と考えられる。品種は、有色系では「べに姫」, 「富士の輝」, 「クリスマス・ローズ」, 「クリ

表 2 採花期と収穫調査

品 種	播 種 期	採 花 期			採花期間 (日数)	切花数 (本)	切花長 (cm)	切花重 (g)	八重咲 (本)	八重率 (%)
		始 (月日)	最 盛 (月日)	終 (月日)						
相 模 紅	6. 22	9. 10	9. 18	9. 30	20	54	47.3	39.2	36	66.7
	7. 7	9. 24	10. 12	10. 19	25	47	64.7	59.2	33	70.2
	7. 23	9. 30	10. 19	11. 11	42	22	58.4	54.6	18	81.8
べ に 姫	6. 22	9. 3	9. 21	9. 30	27	181	53.1	47.0	137	75.7
	7. 7	9. 18	10. 12	11. 4	47	85	63.5	55.8	76	89.4
	7. 23	10. 7	11. 4	12. 8	62	71	70.0	60.3	46	64.8
富 士 の 輝	6. 22	9. 3	9. 18	9. 30	27	85	63.5	67.3	65	76.5
	7. 7	9. 18	10. 12	11. 9	52	59	71.9	55.9	48	81.4
	7. 23	10. 12	10. 26	11. 27	46	45	71.3	59.4	30	66.7
ク リ ス マ ス ロ ー ズ	6. 22	9. 3	9. 16	9. 30	27	169	55.0	37.8	107	63.3
	7. 7	9. 16	9. 24	10. 31	45	37	60.3	57.5	30	81.1
	7. 23	9. 30	10. 7	11. 16	47	36	56.5	47.3	23	63.9
ク リ ス マ ス ブ ル ー	6. 22	9. 3	9. 24	10. 31	58	183	57.2	59.2	131	71.6
	7. 7	9. 21	10. 19	11. 11	51	87	74.3	75.7	66	75.9
	7. 23	10. 7	10. 30	12. 8	62	131	75.4	87.2	92	70.2
先 勝 の 雪	6. 22	9. 3	9. 18	9. 30	27	119	41.4	44.7	87	73.1
	7. 7	9. 16	10. 12	11. 4	49	111	49.2	59.3	91	82.0
	7. 23	10. 7	10. 19	11. 16	40	47	47.7	61.5	33	70.2
安 房 の 雪	6. 22	9. 10	9. 24	11. 4	55	137	47.2	55.6	86	62.8
	7. 7	10. 5	10. 22	11. 9	35	63	66.0	90.4	47	74.6
	7. 23	10. 12	11. 4	12. 8	57	53	63.5	90.5	30	56.6

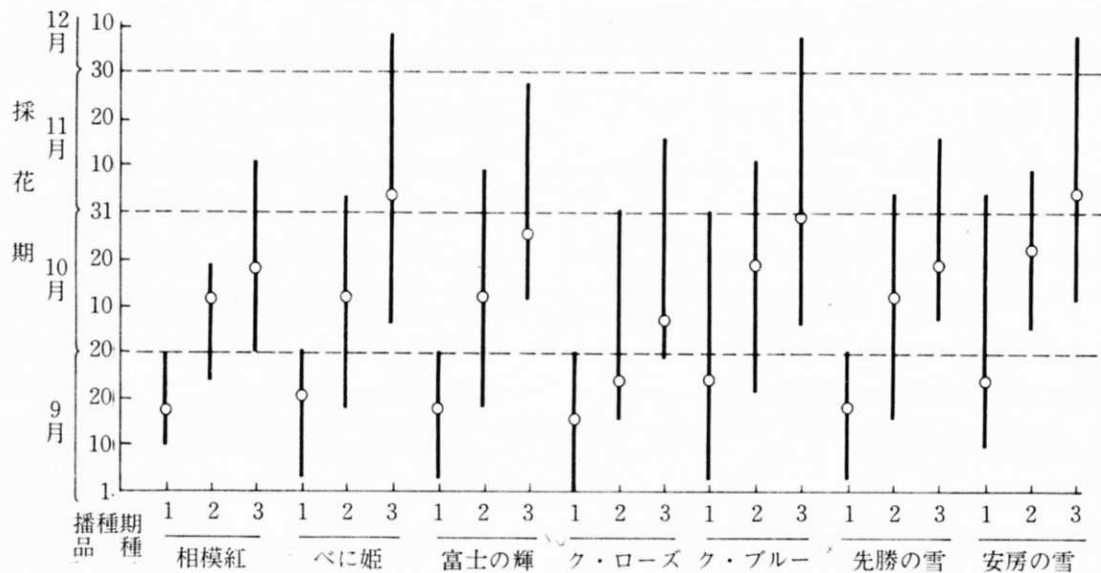


図 1 採花期 (—○—の○は 50% 以上採花した日)
(播種期 : (1) 6 月 22 日, (2) 7 月 7 日, (3) 7 月 23 日)

スマス・ブルー」が有望で、白色系では、切花長がやや短かったが、「先勝の雪」、「安房の雪」が有望と考えられる。

八重率については、棄却率 50% でも十分でなく、なお検討を要する。

引 用 文 献

- (1) 柴田浩・水越洋三・畠山順三・極早生ストックの施設栽培における作期について、東北農業研究 23, 155-156 (1978)。
- (2) 吉池貞蔵・露地栽培用ストックの品種と播種期について、東北農業研究 21, 271-272 (1978)。